

## 第1回東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 令和4年10月6日（木）18:30～19:10
2. 会 場 エコーセンター2000 2階 大会議室
3. 出席者 吉田委員（座長）、山崎委員（副座長）、由井委員、三浦委員、  
大井委員、川畑委員、杉沢委員、成田委員、板垣委員、三上委員、  
前田委員、二宮委員、明神委員、井南委員、深津委員

### ◆18:30 開会

（佐々木課長）

定刻となりましたので、只今より「第1回・東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会」を開催いたします。

はじめに、網走市長・水谷洋一から委嘱状を交付させていただきます。水谷市長が回りますので、皆さまは自席でお受け取りください。

それでは、懇談会の開催にあたり、水谷市長より、ご挨拶を申し上げます。

（水谷市長）

こんばんは。市長の水谷でございます。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

只今委嘱状を交付させていただきました。東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃から、それぞれの地域で地域振興等にご尽力いただいておりますことに、改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて、今回の「定住自立圏構想」は、安心して暮らせる地域づくり、暮らしに必要な様々な機能を、それぞれの地域でフルセットで用意していくという考え方を超えたものと、このように考えているところでございます。

全国的な人口減少・少子高齢化の進展によりまして、当圏域においても医療をはじめ、福祉、ごみ、上下水道、公共交通など、さまざまな課題が存在しているところでございます。

東オホーツク定住自立圏は、これまでさまざまな分野において連携して取り組んできた1市4町が、その連携をより強固なものとして、今後迎える、さらなる人口減少・少子高齢化に対応するために、本年3月に網走市と各町で協定を締結したことにより形成をされたところでございます。現在は、今後5年間の圏域が目指す将来像や、各市町が連携・協力する具体的な取組を定める「共生ビジョン」の策定に取り組んでいるところであります。

この共生ビジョンは、行政運営の指針ともなっておりますことから、委員の皆様におかれましては、幅広い分野・視点から、忌憚のないご意見をいただければとこのように考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。懇談ではございますが私からのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いたします。ありがとうございます。

(佐々木課長)

水谷市長は、次の用務のためここで退席をいたします。

～委員及び事務局紹介～

続きまして、次第の4、議事（1）「座長・副座長の選出」に入ります。  
座長選出までの間、私が仮議長として議事を進行させていただきます。

はじめに、座長の選出につきまして、お諮りいたします。  
懇談会設置要綱第5条の規定により、座長は委員の互選にて、定めることになっておりますが、どのように執り進めればよろしいか、ご意見を伺いたいと存じます。

(川畑委員)

事務局案があればお願いします。

(中野係長)

事務局より提案させていただきます。座長に、東京農業大学 吉田委員を推薦させていただきます。

(佐々木課長)

ただいま、事務局から吉田委員を座長に、との提案がありました。いかがでしょうか？

**【異議なしの声あり】**

(佐々木課長)

ご異議がございませんので、座長は、吉田委員にお願いいたします。吉田座長には、席の移動と、この後の進行をお願いいたします。

(吉田座長)

それでは、私が議事を進めさせていただきます。副座長の選出ですが、懇談会設置要綱第5条の規定により、座長が指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。

副座長は、網走市社会福祉協議会 山崎(やまざき)委員にお願いしたいと存じます。  
山崎副座長は、席の移動と、一言ご挨拶をお願いいたします。

(山崎副座長)

ただいま、副座長に指名されました山崎でございます。吉田座長を補佐し、当懇談会が円滑に進むよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(吉田座長)

それでは次に、(2)「東オホーツク定住自立圏共生ビジョンの策定及び素案」について、事務局から説明をお願いします。

(中野係長)

初めに「定住自立圏構想」と「共生ビジョン」について、ご説明いたします。事前にお送りしております資料「共生ビジョン」の1ページをご覧ください。

上段ですが、定住自立圏・構想とは、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、「定住」のために必要な生活機能を、圏域・総体として確保しようとするものです。

本制度の財政的なメリットといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたって、事業にもよりますが、優先的に採択されるなどの優遇措置、また、国の特別交付税措置などがあります。

共生ビジョンとは、圏域の将来像や、概ね5年間の具体的取組を定めたものでございまして、圏域・住民がゆとりと、潤いを実感し、安心して子育てができる環境を整え、子どもや若者が夢と誇りを持って、この地域に住み続けたいと思えるような、魅力と活気に満ちた圏域の構築を目指すものです。

共生ビジョンの策定にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市町村にて協議をすることとされておりまして、まさに本日のこの場が、その懇談会でございます。

それでは、「東オホーツク定住自立圏共生ビジョンの策定および素案」について、ご説明申し上げます。

一部修正箇所がございます。

16ページをご覧ください。ページ中段にございます【事業費】のうち、上から3行目、と一番下の行に記載の「網走厚生病院脳神経外科運営支援事業」令和4年度の事業費が共にゼロと記載されておりますが、正しくは、上から3行目・網走市の事業費が40,427、一番下の行・大空町の事業費が4,850となり、合計が278,008でございます。

併せて、一番下の行・大空町の令和5年から8年までの事業費も同様に4,850となります。

もう一点ございまして、41ページをご覧ください。ページ中段にございます【事業費】のうち、上から4行目・「デマンドバス運行事業」について、令和5年度以降の事業費が30,000千円と記載されておりますが、正しくはゼロ、でございます。

この事業は令和4年度の取り組みの検証結果を踏まえ、あたためて事業を構築する予定でございまして、現時点ではゼロという表記となるものでございます。

それでは、改めて共生ビジョン素案についてご説明申し上げます。

こちらは事務局で作成いたしました素案でございます。これに、今後皆さまからいただくご意見を反映し、来月中の成案化をめざしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

共生ビジョンとは、住民の生活環境が密接に関係している地域をひとつの圏域と捉え、

定住に必要な都市機能・生活機能を確保することを目的として、圏域の将来像と、概ね5年間の具体的取組を定めたものでございます。

ここに記載されております取組みの中には、既に各市町が連携し取り組んでいるものもございますし、この度の圏域形成を契機として始まる取組みもございます。

1市4町が連携しこれらに取り組むことによって、住み続けられる圏域を目指すものです。

共生ビジョンの構成は、第1章から第4章までとしております。

表紙を1枚めくっていただき1ページです。

第1章は、「はじめに」と称して、定住自立圏構想の概要、名称、構成市町、共生ビジョンの目的や期間を記しております。該当ページは1ページと2ページでございます。

次に3ページをお開きください。

第2章は「圏域の概況」でございます。

3ページから9ページには、数値で見る圏域の概況と、構成市町の概要を、10ページから12ページには、各分野における圏域の都市機能の集積状況と利用状況について、記載しております。

次に13ページをお開きください。第3章「圏域の将来像」でございます。

今後ますます進行する人口減少・超高齢社会、さらにはウィズコロナに対応し、誰もが健康で活躍し、将来に渡り安心して暮らし続けることのできる圏域の形成を目指し、

DXなど新しい時代の流れを力にしながら、互いの独自性を尊重し、それぞれの役割に応じた取組みを進めることで、保健、医療、地域公共交通、などの生活機能の確保や、圏域の特性を活かした産業振興、交流・関係人口の創出、結婚・出産・子育てがしやすい環境づくり、将来を担う人材育成など、都市機能・生活機能の維持・確保に努めることとしております。

14ページには、圏域の将来人口推計と目標を記載しております。

15ページからは第4章「定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組」でございます。具体の取組みは全部で29事業ございますが、それを体系的に示したものが15ページの図でございます。

16ページから最終47ページまでは、将来像を実現するためのこれらの事業について、事業概要、成果指標、各市町の役割、個別事業と事業費をそれぞれ記しております。

以上、新たな共生ビジョンの概要について説明申し上げました。

どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。以上でございます。

(吉田座長)

ただいま、事務局より、東オホーツク定住自立圏共生ビジョンの素案について、説明がありましたが、委員の皆様から、ご意見をいただければと存じます。ご意見や、ご質問など、いかがでしょうか？

(杉沢委員)

14 ページの将来人口の目標値は、その隣の推計値に対して随分多いですが、どのように定めたものなのでしょう。

(佐々木課長)

記載されている推計値は社会保障人口問題研究所で推計した値でございます、これを用いて各市町が総合計画・総合戦略を定め、町づくりの方策を進めているものでございます。

目標値は社人研の推計に対して、ビジョンの取り組みによってその減少幅を抑制することにより、目指す人口を各市町がそれぞれ定めたものでございます。

(吉田座長)

今日がスタートでありますので、なかなかすぐにご意見をというのではないかもしれませんが、ご意見があれば事務局にお寄せいただくなどしていただければと思いますが、本日、共生ビジョン素案をご覧になった中で何かほかにございませんでしょうか。

幅広い分野から各委員の皆様にご出席いただいておりますので、それぞれのお立場からのご意見などもいかがでしょうか。

無いようですので、また今後ご意見があれば事務局に提出いただくということで本日はよろしいでしょうか。

**【異議なしの声あり】**

(吉田座長)

それでは事務局から説明をお願いします。

(植松主事)

東オホーツク定住自立圏共生ビジョンは、皆様からのご意見等を精査のうえ、10月中旬頃までに案としてまとめ、10月下旬から11月下旬にかけて、パブリックコメントの募集を行う予定でございます。

なお、ビジョンへのご意見につきましては、本日の懇談会終了後も引き続きお受けいたしますので、お気づきの点などございましたら、お気軽に私どもまでお知らせください。

また、その際には、本日お配りしたご意見提出用の用紙をご活用いただけますので、FAX・郵送などによりご提出いただくか、用紙に記載の網走市企画係アドレスへ電子メールでお送りいただければと思います。メールでご意見をいただく場合は、用紙を使わずにメール本文に記載いただいても構いません。

お手数をおかけいたしますが、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本日お配りいたしました「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン・成果指標の進捗状況について」は、本圏域の前身である網走市大空町定住自立圏の昨年度取り組み結果をまとめたものですので、後ほど参考に御覧ください。

主な成果としましては、1ページの救急医療・休日医療体制の確保ですが、年間を通じて必要な体制を維持してまいりました。

また、医療分野では、令和3年度に網走厚生病院に手術支援ロボット・ダヴィンチを導入したことで、同病院に常勤の泌尿器科医を配置することができました。この手術支援ロボット導入の財源確保には、定住自立圏域制度に取り組むことで受けられる、国の財政支援を活用しております。

そのほか、下水道終末処理施設やし尿処理施設、スポーツ施設や子育て支援施設など公共施設の相互利用などに取り組んでおります。

現在策定中の共生ビジョンにつきましても、翌年度以降同様に、取り組みの結果を検証・ご報告し、ビジョンの推進を図ってまいりたいと考えております。

事務局からは以上です。

(吉田座長)

それでは、最後になりますが、委員の皆様から何かございませんか？

無いようですので、以上で「第1回・東オホーツク・定住自立圏・共生ビジョン懇談会」を終了いたします。皆様、大変ご苦勞様でした。

◆19:31 閉会